

## こもれび1組

### 自立活動

単元名 気持ちと上手に向き合おう

令和6年11月22日(金) 4校時

児童 こもれび学級1組 1年生3名 2年生5名

場所 こもれび学級1組

授業者 高山 陽輔 (T1) 鈴木 淳 (T2)

#### 1. 児童観

本学級の児童は、元気で活発であり、感情を素直に表現できる。しかしながら、感情表現がいきすぎて大声で叫んで物を投げたり、教室外へ飛び出したりする児童もいる。また、勝負事で勝つと喜びが強すぎて相手を不快にさせてしまう行動を取ってしまうこともある。

そのような児童には、気持ちのコントロールに目を向け、児童の意思を尊重しつつも、どのような行動がよいか考えるように指導してきた。

今後も児童の気持ちは尊重しつつ、自らの気持ちを適切に表現できるようにすることが大切と考える。

#### 2. 教材観

自信がもてない、人とうまく関われないなど、児童の課題は様々ではあるが、試行錯誤を通して上手くできたと思えることや周りに認めてもらえることが自己肯定感の土台であると考え。そして、自分を受け入れてもらった経験が自己肯定感を育て、児童の成長を支えていくのだと考える。

本単元の「気持ちと上手に向き合おう」では、まず色や模様を気持ちと結びつけて考える。次に表したい気持ちを選び、万華鏡で模様を作成する。そして試行錯誤して模様を形成し、上手くいった所を考えることで自己肯定感の向上へつなげたい。また、周りからの肯定的な意見や振り返りを通して、人との関わり方を学習する機会にもしたい。

##### 【自立活動の内容項目】

- 2 心理的安定 (1) 情緒の安定に関すること
- 3 人間関係の形成 (1) 他者とのかかわりの基礎に関すること (3) 自己の理解と行動の調整に関すること
- 5 身体の動き (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること
- 6 コミュニケーション (1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること

#### 3. 研究とのかかわり

##### 仮説1 <児童の実態に応じた課題設定>

- ・集中力に欠ける、自信がもてない、また課題にスムーズに取り組めない児童がいるので、視覚的に掲示したり、タブレット端末を操作したりするなど、児童の実態に応じた課題を設定するようにする。 【5. 個別の実態に詳細を記載】

##### 仮説1 <児童の実態に応じた手立ての工夫>

- ・見通しがもてるように学習の流れや発表の仕方や聞き方を視覚的に掲示する。
- ・ロイロノートを活用してワークシートへの記入を行う。手書きが良い児童は手書きを選ぶ。 【5. 個別の実態に詳細を記載】

##### 仮説2 <自己肯定感を高める人と関わる学習活動>

- ・意図的に関わり合う活動を設定し、自分の作ったものを見せ合ったり、友達の発表を聞いたりする。
- ・自分の考えや思いに気付く活動を設定し、ワークシートやふりかえりシートに書く。

##### 仮説2 <自己肯定感を高める教師の関わり方>

- ・発表する人を見て聞く、発表が終わったら拍手をするなど、お互いが認められるような関係づくりを心がける。
- ・交流することが難しい児童に対しては、児童の気持ちを尊重した関わりをする。

#### 4. 単元計画

時数	学習活動	目標
1	○気持ちと色・模様 ・気持ちを表す言葉が様々あることを理解し、どの模様や色がその気持ちを表すか考える。	・模様から感じる気持ちの意見交換を通して、自分との違いや共通するところに気づき、他者理解を深めることができる。

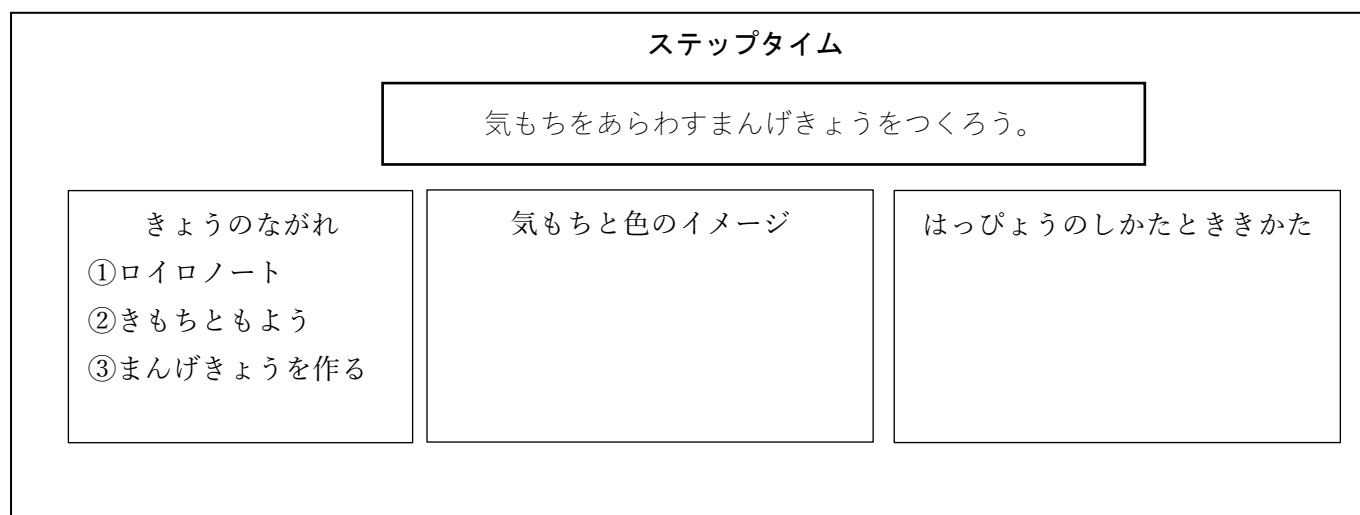
2 【本時】	○気持ちと上手に向き合おう① ・前時で学んだことを生かし、万華鏡作成をする。	・試行錯誤しながら気持ちを表現する万華鏡を作る。 ・周りの児童に向けて作成物を発表しようとする。
3	○気持ちと上手に向き合おう② ・前時の振り返りをいかし、工夫をして万華鏡を作成する。	・色を選択し、前回の反省を活かしながら工夫をして万華鏡を作成する。 ・落ち着く色や模様を認識する。

5. 個別の実態・目標・手立て・評価

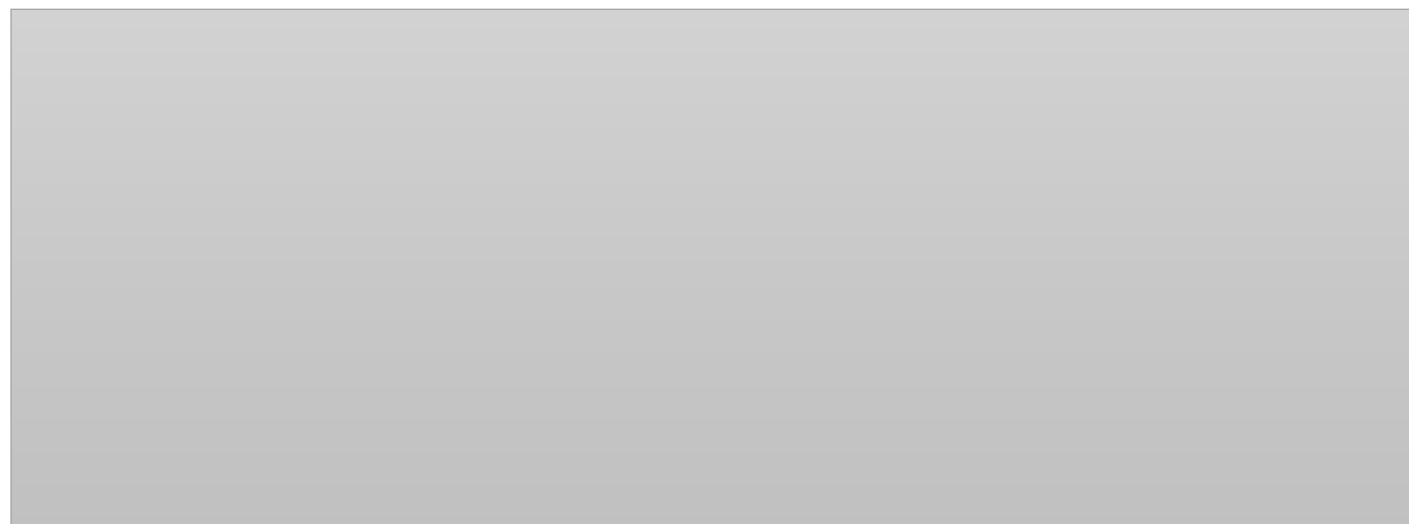
児童	児童の実態	本時の個別目標	個別の手立て	個別目標の評価



## 7. 板書計画



## 8. 座席配置図



6. 本時の展開

	学習内容	教師の関わり ☆T2の動き	◆支援の手立て □評価	
導入	1. 本時の流れを確認する。 2. ロイロノートでアンケートに答える。 3. 前時の学習を振り返る。 4. 本時の課題を把握する。	・本時の流れを提示する。 ・ロイロノートで作った「～といえバ？」問題を提示する。 色に関する「～といえバ」問題を後半に入れ、前時の学習の想起につなげる。 ・気持ちと模様を結び付けて、色を塗ったことを確認する。 ・課題を提示する。	◆本時の流れを視覚的に示し、児童が見通しをもてるようにする。 ◆児童の興味・関心がもてるような身近な内容を出す。 ◆前時の模様から感じる気持ちについて触れ、万華鏡作成へと繋げる。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">             気持ちをあらわすまんげきょうをつくろう。           </div>			
展開	5. 気持ちを選び、万華鏡で模様を作成する。 6. 万華鏡の中身を見せながらクイズ形式で発表する。 7. ふりかえりシートに書く。 8. ふりかえりシートに書いたことをみんなの前で発表する。	・気持ちは3種類とする。 ○落ち込んだ時に見たら元気になる ○よく眠れそう ○イライラが落ち着く ・どうしてその色にしたのか聞いたり、認めたりしながら工夫の動機づけをする。 ・発表の仕方や聞き方を説明する。 ・本時の振り返りをふりかえりシートに書いてもらう。 ・児童にふりかえりシートに書いたことを発表してもらう。	☆万華鏡の作成を手伝う。 ☆実物投影機で模様が見えるように映す。	◆様々な色や形を用意し、児童がいろいろ試したいと興味を持てるようにする。 ◆見本を提示し、イメージがつくようにする。 ◆実物投影機を使い、中身を見せながら説明できるようにする。 □気持ちを表現する万華鏡を作成できたか。 ◆どのように書いたらいいのかわからない児童に対して適宜声をかける。 □工夫して万華鏡を作成したことを書けているか。 ◆発表がしやすいように声をかける。 □ワークシートに書いたものを発表することができているか。 ◆感想を書くことがわからない児童に対して、どのように書いたらいいのか一緒に考える。

【個別の評価については、5. 個別の実態・目標・評価に詳細を記載】